

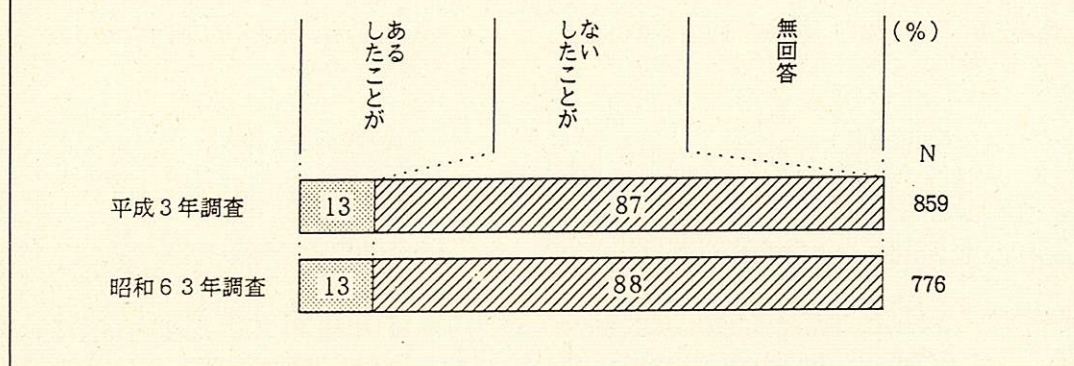
5. ボランティア活動

5-1. ボランティア活動参加の有無

◎参加経験者は13%。

問8 お年寄りや心身に障害のある人々のために、地域でボランティア（奉仕）活動が行われていますが、今までに、あなたはボランティア活動に参加したことがありますか。

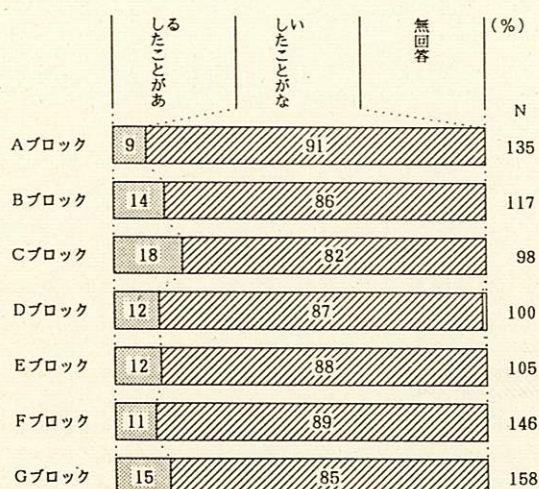
図5-1



ボランティア活動に参加「したことがある」という人は13%、「したことはない」という人は87%である。この割合は昭和63年とほとんど変わらない（図5-1）。

地区別ではCブロック（18%）で参加経験率が高くなっている（図5-2）。

図5-2 地区別 ボランティア活動参加の有無



ボランティア活動の参加経験率は、男性よりも女性で高く、とくに60歳代以上の女性では20%を超えている。また、男女を問わず、若年層では参加経験率が低くなっている。これはライフステージ別にみて、老齢期、家族成熟期が、居住年数別にみて、昭和30年代から、また昭和29年以前から住んでいる人で参加経験率が高くなっていることと対応する（図5-3～5）。

図5-3 性別・性年齢別 ボランティア活動参加の有無

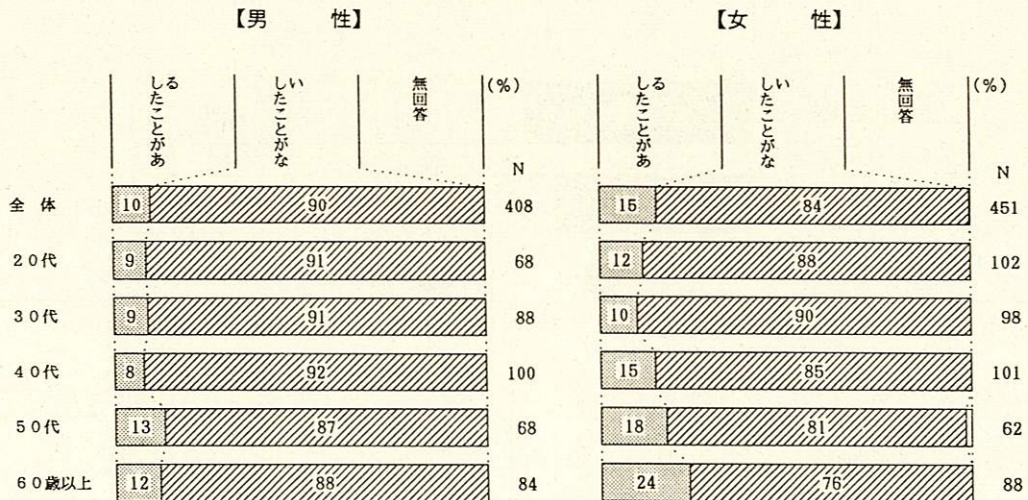


図5-4 ライフステージ別
ボランティア活動参加の有無

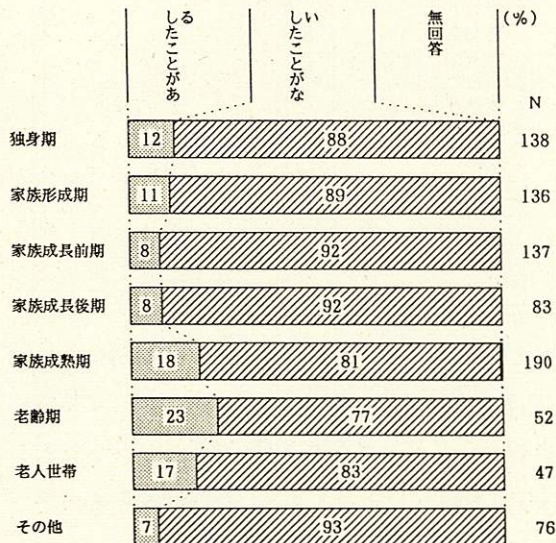
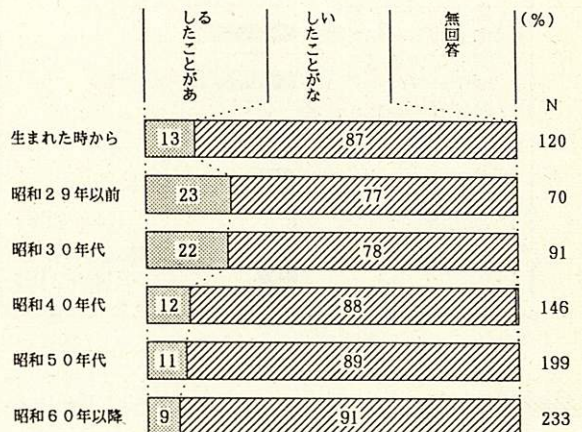


図5-5 居住年数別
ボランティア活動参加の有無

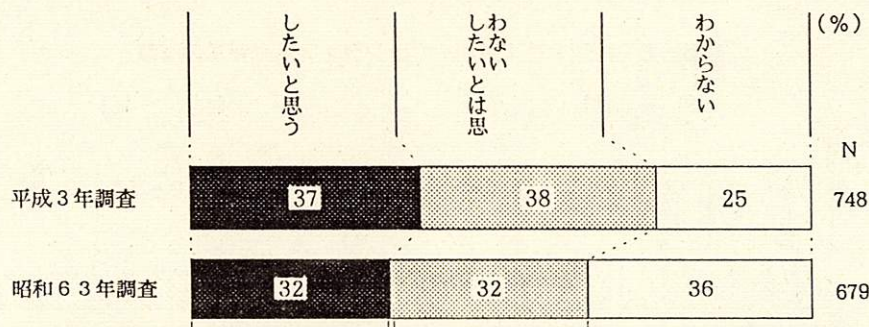


5-2. ボランティア活動への参加意向

◎ボランティア参加希望者増える。

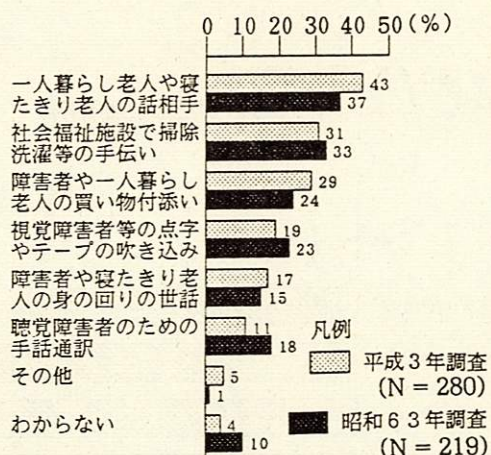
問8-1 今後、ボランティア活動をしたいと思いますか。

図5-6-①



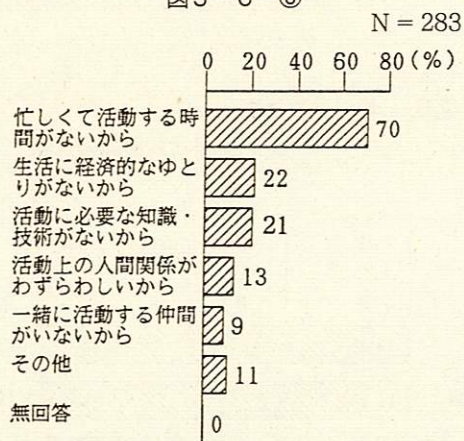
問8-1-1 今後どのようなボランティア活動をしたいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

図5-6-②



問8-1-2 ボランティア活動をしたいと思わない理由は何ですか。この中から2つまであげてください。

図5-6-③

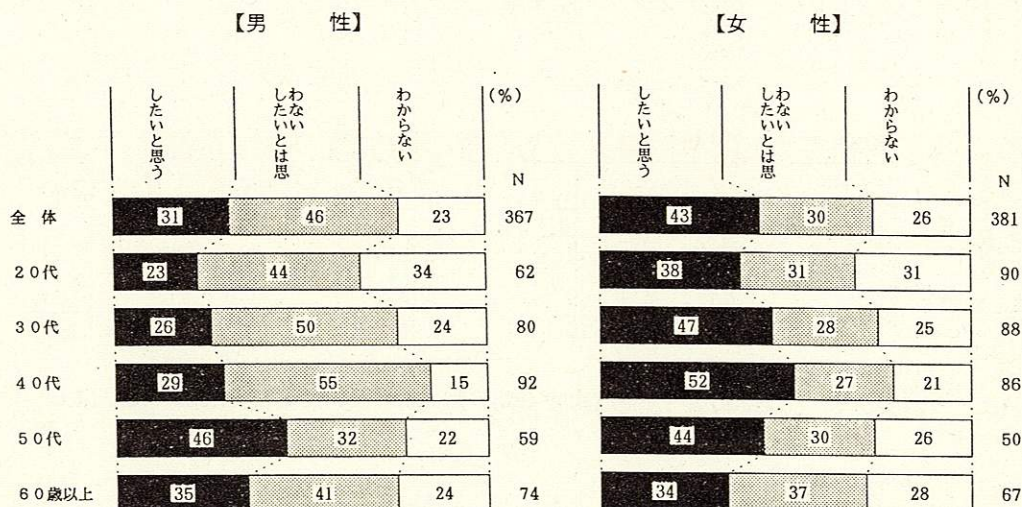


ボランティア活動に参加「したことがない」と答えた人のうち、今後ボランティア活動を「したいと思う」人は37%、「したいとは思わない」人は38%、「わからない」という人は25%である。昭和63年は「したいと思う」、「したいとは思わない」のどちらも32%だったが、それと比べるとどちらも増えており、「わからない」という人が減り、はっきりとした態度をとる人が多くなっていることがわかる(図5-6-①)。

ボランティア活動参加希望者は、全体として男性よりも女性に多い。女性の場合、20歳代では38%だが、30歳代から50歳代までは各世代で40%以上の方がボランティア活動への参加を希望している。とくに40歳代では52%と参加希望率が高い。男性では、50歳代の46%が最高となっている（図5-7）。

次に、参加希望者に、どのようなボランティア活動をしたいのか質問したところ、①「一人暮らし老人や寝たきり老人の話相手」（43%）、②「社会福祉施設で掃除洗濯等の手伝い」（31%）、③「障害者や一人暮らし老人の買い物付添い」（29%）、④「視覚障害者等の点字やテープの吹き込み」（19%）、⑤「障害者や寝たきり老人の身の回りの世話」（17%）、⑥「聴覚障害者のための手話通訳」（11%）という回答を得た。1位から4位までは昭和63年と変わらないものの、そのうち「老人の話相手」、「買い物付添い」が増え、「施設での掃除洗濯等の手伝い」、「点字やテープの吹き込み」が減っている。また、「手話通訳」を希望する人も18%から7ポイント減っている（図5-6-②）。

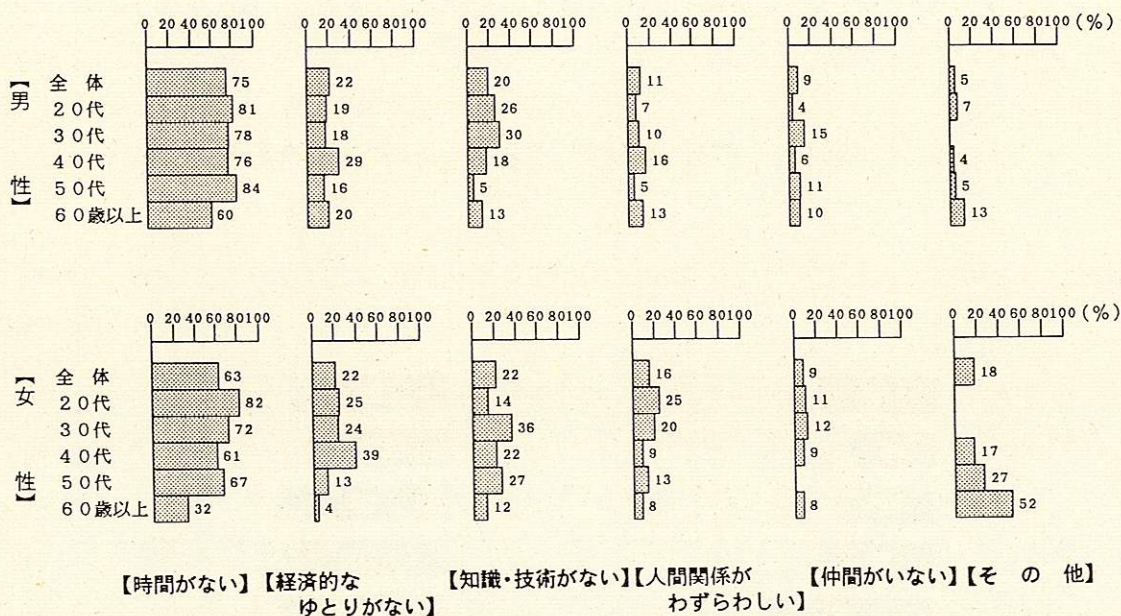
図5-7 性別・性年齢別 ボランティア活動への参加意向



また、参加「したいとは思わない」という人に、その理由を聞いたところ、「忙しくて活動する時間がないから」(70%)、「生活に経済的なゆとりがないから」(22%)、「活動に必要な知識・技術がないから」(21%)、「活動上の人間関係がわずらわしいから」(13%)などとなっている(図5-6-③)。

このうち、「時間がない」というのは、男性では全年齢層にわたって多いが、女性では20歳代、30歳代の若年層で目立っている。「経済的なゆとりがない」というのは40歳代の男女で、「知識・技術がない」というのは30歳代の男女で、「人間関係がわずらわしい」というのは20歳代の女性で目立っている(図5-8)。

図5-8 性別・性年齢別 ボランティア活動をしたくない理由

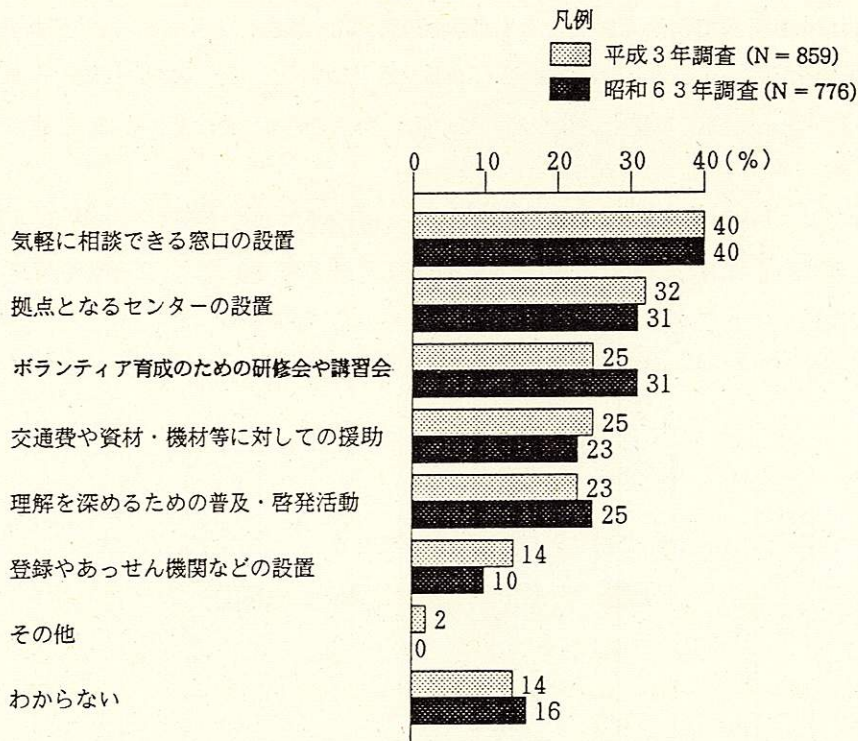


5-3. ボランティア活動活発化のために市が力をいれるべきこと

◎1位：相談窓口の設置、2位：拠点の設置、3位：研修会・講習会、活動への援助

問9 あなたは、ボランティア活動を活発にするには、市ではどのようなことに力を入れればよいとお考えですか。この中から2つまであげてください。

図5-9



ボランティア活動を活発化するために市が力をいれるべきこととしては、「気軽に相談できる窓口の設置」(40%)という答えがもっとも多かった。次いで、「拠点となるセンターの設置」(32%)、「ボランティア育成のための研修会や講習会」、「交通費や資材・機材等に対する援助」(25%)、「理解を深めるための普及・啓発活動」(23%)、「登録やあっせん機関などの設置」(14%)となっている。昭和63年の調査と比べると、「相談窓口の設置」、「拠点となるセンターの設置」への要望に関してはほとんど変わらないといえるが、活動への援助、登録・あっせん機関の設置への要望が増え、研修会・講習会、普及・啓発活動への要望が減少していることは注目される(図5-9)。

「相談窓口の設置」については、男女とも全年齢層にわたって要望が強いが、男性よりも女性で、また若年層よりも高齢層で、相対的に割合が高くなっている。とくに要望が目立っているのは、50歳代の女性（55％）である。「拠点となるセンターの設置」は、40～50歳代の男性と30歳代の女性で多くなっているが、50歳代以上の女性では目立って少なくなっている。「交通費や資材・機材等に対する援助」は、20歳代の男性で43％と多くっており、全体的に見て、女性よりも男性で、高齢層よりも若年層で、要望が強くなっている。「研修会・講習会」は女性の要望が強いが、とくに40歳代（36％）が目立っている。「普及・啓発活動」は逆に男性、とくに40～50歳代で要望が強くなっている。女性でも40歳代では24％と他の年齢層と比べて割合が高くなっている（図5-10）。

地区別では、「相談窓口の設置」はCブロック（50％）で要望が目立って強く、「拠点となるセンターの設置」はBブロック（40％）とEブロック（39％）で、「交通費や資材・機材等に対する援助」はEブロック（35％）で目立っている（図5-11）。

図5-10 性別・性年齢別 ボランティア活動活発化のために市が力をいれるべきこと

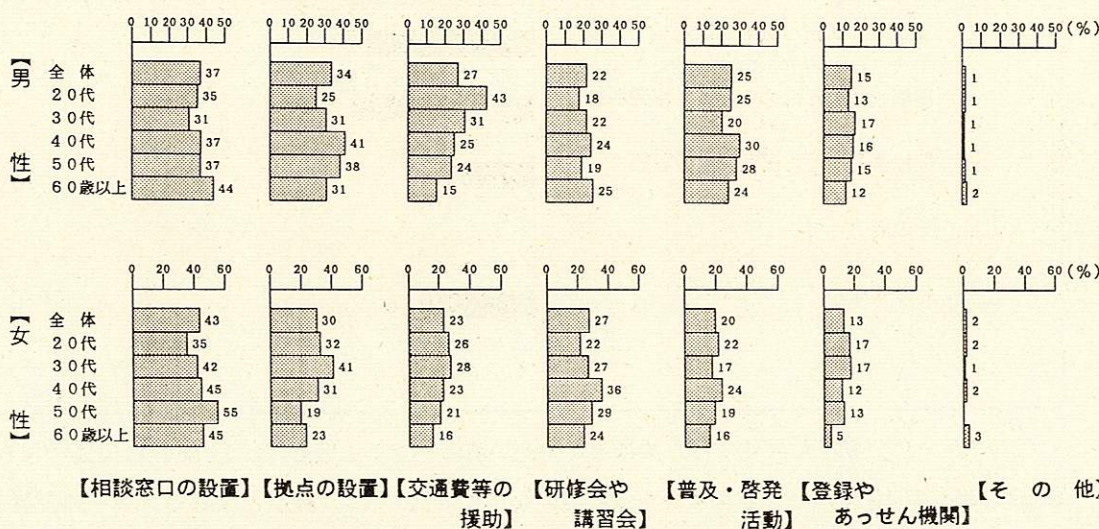
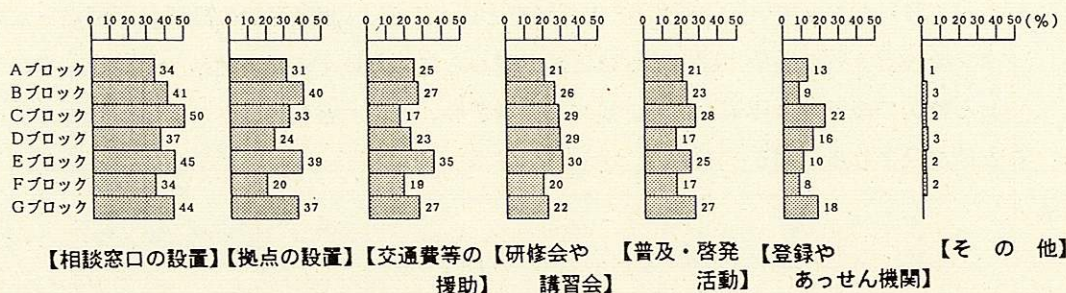


図5-11 地区別 ボランティア活動活発化のために市が力をいれるべきこと

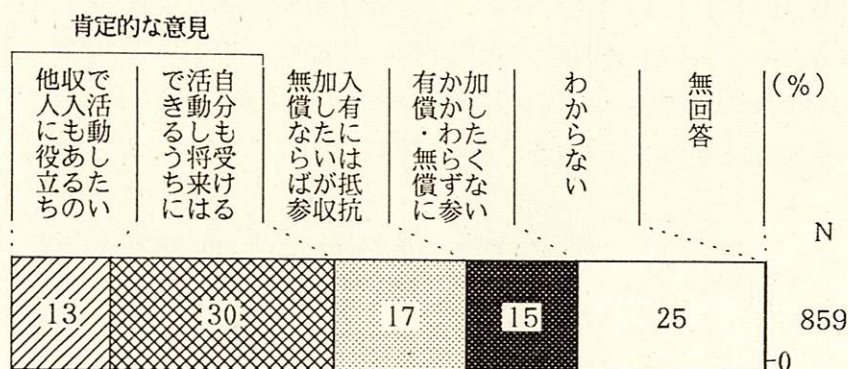


5-4. 有償福祉サービスについての意見

◎43%の人が肯定的な意見。

問10 有償の福祉サービスが全国的に広がりつつありますが、あなたは、こうした活動について、どのように思いますか。このなかから1つだけあげてください。

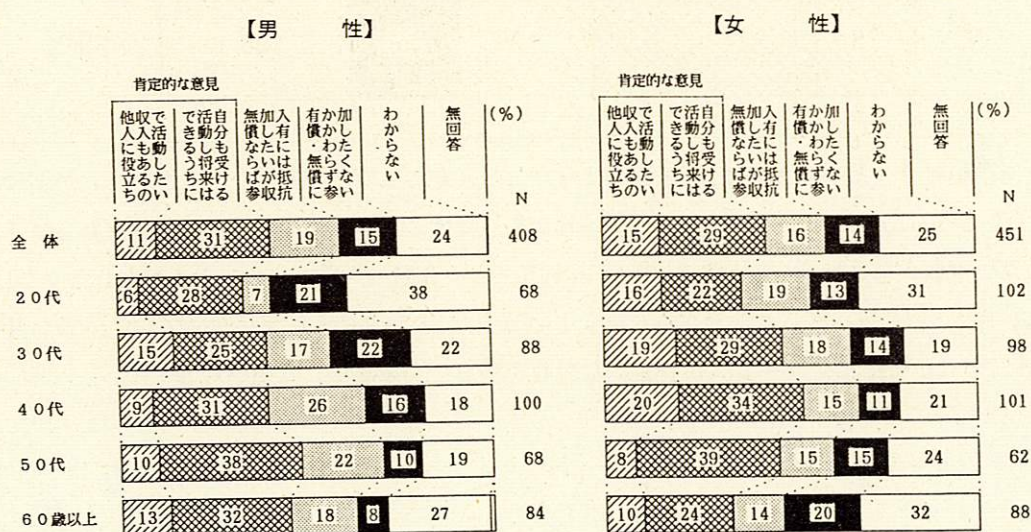
図5-12



有償福祉サービスについては、「他人に役立つ収入もあるのだから活動したい」という人が13%、「できるうちに活動し将来は自分も[サービスを]受ける」という人が30%、「無償ならば参加したいが収入有には抵抗がある」という人が17%、「有償・無償にかかわらず参加したくない」という人が15%、さらに「わからない」という人が25%という結果になっている。合わせて43%の人が有償福祉サービスに肯定的な意見を持っていることになる(図5-12)。

性年齢別でみると、有償福祉サービスに肯定的な意見は、40歳代の女性（54%）で50%を超えており、また50歳代の男性、30歳代、50歳代の女性でも肯定的な意見は多い。また、男女とも20歳代および女性60歳以上では肯定的な意見は目立って少なくなっている。「他人に役立ち収入もあるので活動したい」という人は30～40歳代の女性で目立っており、「将来は自分も〔サービスを〕受ける」という人は50歳代の女性（39%）、50歳代の男性（38%）、60歳代以上の男性（32%）でとくに多くなっている。「収入有には抵抗」があるという人は40歳代（26%）をはじめとした40～50歳代の男性で多く、女性では20～30歳代の若年層で「抵抗」を感じるという人が比較的多い。「有償・無償にかかわらず参加したくない」という人は20歳代・30歳代の男性と60歳以上の女性に多い（図5-13）。

図5-13 性別・性年齢別 有償福祉サービスについての意見



ライフステージ別では、独身期では肯定的な意見は比較的少なく、家族が成熟するにつれて多くなっているが、老齢期になるとまた少なくなっている。しかし、老人世帯では肯定的な意見が平均を若干上回っている（図5-14）。

地区別では、Cブロックで肯定的な意見が57%と目立って多くなっている（図5-15）。

図5-14 ライフステージ別
有償福祉サービスについての意見

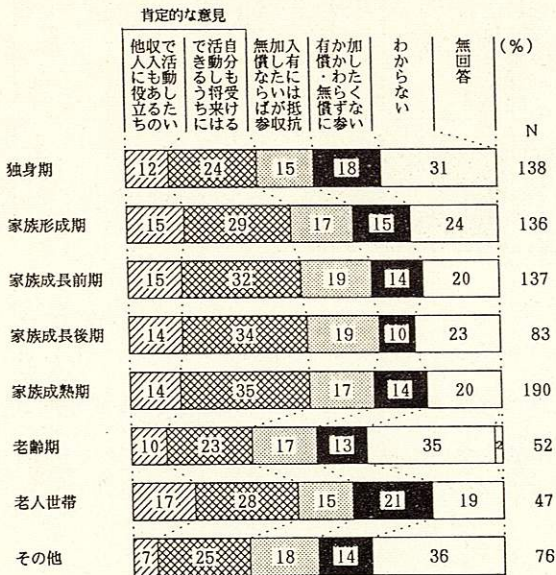


図5-15 地区別
有償福祉サービスについての意見

